

京都府感染症対策委員会開催結果報告書

1 開催日時

平成28年3月11日（金） 15:00～17:00

2 開催場所

京都ガーデンパレス「鞍馬」

3 出席者

別添出席者名簿のとおり

4 内 容

(1) 開 会

あいさつ及び出席者紹介

(2) 議 題（議事進行：一山 智 会長）

- ・感染症対策について
- ・新型インフルエンザ等対策について
- ・結核対策について
- ・エイズ対策について
- ・肝炎対策について

【主な意見等】

<新型インフルエンザ等対策について>

- 新型インフルエンザやMERSなど、新たな感染症が発生した場合に患者を受け入れることになる第二種感染症指定医療機関や、その他協力医療機関に対する情報提供や意見交換等を行うため、定期的な会議等の開催が必要である。
→ 必要性は承知しており、来年度以降、情報交換できる場などを作りたい。

<結核対策について>

- 結核病床を確保しているが、稼働率が低く、大幅な赤字が見込まれるため、経済的な支援を求める。支援がない場合、病床を減らすことも検討する必要がある。

- 平成26年の京都府の結核り患率が全国平均より高いが、都道府県での順位は何番か。また、高齢の患者が増加しているが、原因の分析等はできているか。
 - 26年は47都道府県の中でワースト5位以内であった。原因は不明だが、危機感を持って対策に当たっており、現在集計中である27年のり患率は低下すると思われる。
- 結核の発生状況について、1年以上前の平成26年のデータだけでなく、直近の平成27年のデータを提示して協議することが必要である。
- 結核病床の確保に対する補助金について、国からは、結核だけを特別扱いはできないと言われる。結核患者は結核病床で治療することになっているが、一般病床でも受け入れられるよう改正が必要ではないか。

<エイズ対策について>

- エイズ検査の受検者数が減っており、夜間即日検査も減少している。検査の実施場所毎の陽性率を算出するなど、どういった検査が有効であるか検討し、京都市とも協力して多くの人に検査を受けてもらう必要がある。

<肝炎対策について>

- 肝炎対策については、国において推進されているところ。
 - 府においても、啓発活動や肝炎情報ガイド作成について、患者会とも協働して肝炎対策を実施できていると考える。また、府肝炎情報ガイドについては、他自治体の患者会からの評判も良いと聞いている。
- インターフェロンフリー治療に対する助成は何度でも行うことができるということか。
 - 現在ウイルス型がI型に対応するものが3種類あり、肝疾患診療連携拠点病院に常勤の肝臓専門医が他のインターフェロンフリー治療薬による治療を行うことについて適切であると判断した場合は、複数回の医療費助成があり得る。
 - 3回インターフェロンフリー治療を行うという想定はないが、現時点での再治療に係る照会実績としては、検査所見等添えられている場合もあり、それに基づき判断している。